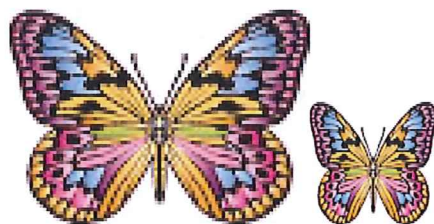


カリキュラムガイダンス

授業科目概要



令和 7 年度

2年生（15回生）

あさくら看護学校

令和7年度 教職員氏名一覧

名称	氏名	担当領域
校 長	田 邊 庸 一	
副 校 長	瓜 生 知佳子	
学校担当理事	草 場 信 秀	
健康管理医	安 永 祐三	
教務主任	馬 場 若 美	小児看護学
実習調整者生	伊 藤 哉 女	成人看護学
実習係（1・2年生）	熊 添 智 春	基礎看護学
実習係（3年生）健康管理	中 野 弘 貴	成人看護学
専任教員／1年生担任	池 田 陽 子	看護の実践と統合
専任教員／2年生担任	林 利 奈	老年看護学
専任教員／3年生担任	佐 藤 みゆき	精神看護学
専任教員／健康管理	秋 吉 優 希 乃	地域・在宅看護論
看 護 教 員	堀 内 幸 代	
事 務 長	吉 田 真 仁	
事 務	鳥 越 恵 理	
事 務	古 谷 美 菜 子	
事 務	養 父 ミキ	
図 書 司 書	渡 辺 香	

目 次

教育理念

ディプロマポリシーと下位目標のつながり

授業科目

学年目標

令和 7 年度 学年歴 1

【基礎分野】 2 ～ 7

情報科学 2

人間関係論 3

人権論 4

生命倫理 5

看護と英語 6

法 学 7

【専門基礎分野】 8 ～ 12

疾病と治療Ⅴ 8 ～ 9

疾病と治療Ⅵ 10

社会福祉学概論 11

社会福祉学方法論 12

【専門分野】 13 ～ 54

臨床につなげる看護技術Ⅰ 13 ～ 14

臨床につなげる看護技術Ⅱ 15 ～ 16

地域・在宅看護概論Ⅱ 17 ～ 18

地域・在宅看護方法論Ⅰ 19 ～ 20

地域・在宅看護技術 21 ～ 22

成人看護学方法論Ⅰ 23 ～ 24

成人看護学方法論Ⅱ 25 ～ 26

成人看護学方法論Ⅲ 27 ～ 28

成人看護学技術 29 ～ 30

老年看護学概論 31 ～ 32

老年看護学方法論 33 ～ 34

老年看護学技術 35 ～ 36

母性看護学方法論 37 ～ 38

母性看護学技術 39 ～ 40

小児看護学方法論 41 ～ 43

小児看護学技術 44 ～ 46

精神看護学方法論	・・・ 47 ～ 48
精神看護学技術	・・・ 49 ～ 50
看護と療法	・・・ 51 ～ 52
家族看護学	・・・ 53 ～ 54

教育理念
『人間の探求・尊き愛』

教育方針

1. 人の存在の肯定のもとに、人の尊厳を尊重する看護を創造できるような教育を行う
2. 地域で生活する人と暮らしを支援することができる看護実践能力を持った人材の育成を行う
3. 看護に対して、意志（成し遂げようとする心）ある学びができるような教育を行う

教育目的

人間存在の肯定を基盤として、人間の尊厳を尊重できる看護を創造的に、生活の中で具現化できるように探求し続け、高度な知識に裏打ちされた臨床での判断によって導き出された看護の実践ができる臨床実践能力を備えた看護師の育成をする。

ディプロマポリシー

本校で教育目標を考えるに当たって、文科省で使用されている学力の3要素を用いて分類を行った。

〈知識・技能〉

1. 対象理解と看護実践

- 1) EBMに基づいた看護を選択し、対象に適した看護の提供ができる能力を身に付けています
- 2) 看護職者として自らの役割を自覚しチームで協働するための能力を身に付けています

〈思考・判断・表現〉

2. 臨床判断能力

- 1) 対象の生活に適した看護を行うために、臨床判断の基礎的能力を身に付けています

3. メタ認知

- 1) 行為の省察や自己の振り返りのためにメタ認知の基礎的能力を身に付けています

〈主体性〉

4. 目的意識

- 1) 課題を見出し、自らの意思で学ぶことができるための能力を身に付けています

5. 看護の創造性

- 1) 人間の尊厳を尊重する看護について、探求、創造し続けることができるための能力を身に付けています

1) ディプロマポリシーと下位目標のつながり

項目 (ディプロマポリシー)		下位目標①	下位目標②
知識・技能	対象理解と看護実践	1) EBM に基づいた看護を選択し、対象に適した看護の提供ができる能力を身に付けています (1) 対象を全体的 (ホリスティック) にとらえることができる (2) 対象を生活者として捉えることができる (3) 対象が望む生活について考えることができる (4) 患者理解と看護の実践のために対象とコミュニケーションをとることができる (5) 目的と根拠に基づいた看護を考える (6) 対象に合わせた看護技術を実践する	① 対象を生命、精神活動、社会活動を行う人として捉える ② 対象の生きてきた過程、生活習慣、生活信条を持ちながら暮らす人として捉える ④ 対象が生活に何を望んでいるかを引き出す ① 対象の反応を見ることができる ② 看護の意図のもと対象とコミュニケーションを行うことができる ③ 看護の専門的知識と対象の状態をつなげて考える ④ 看護技術を実践する上で根拠を明らかにする ⑤ 対象者の意向、価値観を考えた最善と考えられるエビデンスを選択し、看護を実施する ⑥ 対象の安全、安楽、自立を考えた技術を実施する
		2. 看護職者として自らの役割を自覚しチームで協働するための能力を身に付けています (1) 看護職の役割と他職種の役割を理解する (2) 連携が意味する関係の重要性がわかる (3) チームの目的を理解し、メンバーシップを発揮する	① 看護職の役割を自らの言葉で表現する ② 他職者の役割を説明する ③ 顔の見える関係と連携の関連がわかり、連携を意図的にとらえる ④ チームの目的は、対象のより良い生活の実現であることがわかる ⑤ チームの一員としての役割を果たす ⑥ マネジメントの目的と方法を説明する
	臨床判断能力	3. 対象の生活に適した看護を行うため (4) 臨床判断のプロセスを使って看護行為	① 対象の反応に気付くことができる ② 既習の知識を使って解釈すること

思考・判断・表現		に、臨床判断の基礎的能力を身に付けています	を考えることができる	ができる ③対象に適切と思われる看護実践を 実践することができる ④看護行為と行為の結果を認識し評価 することができる ⑤気づき・解釈・反応・省察のプロ セスで看護の場面を考える
	メタ認知	4. 行為の省察や自己の振り返りのためにメタ認知の基礎的能力を身に付けています	1) 看護実践における自己の思考、感情、行動をモニタリングし言語化する 2) 看護実践における自己の思考、感情、行動をコントロールする	①看護実践の気づき、行為、結果の振り返りをする ②看護を実践する過程での自己の感情を振り返り表現する ③自己が経験した出来事を既存の知識に照らし合わせ抽象化する ④問題、課題の意味することを考える
主体的学習	目的意識	5. 課題を見出し、自らの意思で学ぶことができるための能力を身に付けています	1) ありたい未来を描きその実現のために思考、行動できる 2) 自ら知識やスキルを習得する目的を明確にして、行動できる	①課題（学習課題・自分の課題・社会的課題・看護の対象の課題）を発見することができる ②課題解決のためのプロセスを経て、課題解決のために取り組むことができる ③課題解決に向けて、新しい知識を獲得することができる
	看護の創造性	6. 人間の尊厳を尊重する看護について、探求、創造し続けることができるための能力を身に付けています	1) 人間存在の意味について思索する 2) 自己肯定の意識に基づく他者肯定の考え方を学ぶ 3) 人間の存在肯定の上に立つ看護の具現化を探求し学び続ける	①看護にとっての人間の意味を考える ②自分も対象もそれぞれ価値感、信条、考え方は異なるが人権を持った個人であることがわかる ③個人情報保護、プライバシーの保護、権利の尊重を踏まえた看護を考えることができる ④対象にとっての最善の看護を考え続けることができる

2.授業科目					別表					
授業科目			単位	時間	1年次		2年次		3年次	
基礎分野	科学的思考の基礎	論理的思考	1	30	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		物理学	1	30	1					
		情報科学	1	30			1			
	人間と生活・社会の理解	哲学	1	30		1				
		心理学	1	30	1					
		人間関係論	1	30			1			
		発達心理学	1	30		1				
		人権論	1	30			1			
		生命倫理	1	30				1		
		文化人類学	1	30						1
		看護と音楽	1	15						1
		看護と英語	1	30			1			
		中国語	1	15					1	
		組織論	1	30	1					
		法学	1	15			1			
①小計			15	405	4	2	5	1	1	2
授業科目			単位	時間	1年次		2年次		3年次	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2	60	2					
		解剖生理学Ⅱ	1	30		1				
		解剖生理学Ⅲ	1	30		1				
		生化学	1	30	1					
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30	1					
		微生物学	1	30	1					
		疾病と治療Ⅰ	1	30		1				
		疾病と治療Ⅱ	1	30		1				
		疾病と治療Ⅲ	1	30		1				
		疾病と治療Ⅳ	1	30		1				
		疾病と治療Ⅴ	1	30			1			
		疾病と治療Ⅵ	1	15				1		
		薬理学	1	30	1					
		栄養学	1	30	1					
		看護臨床判断の基礎	1	30		1				
	健康支援と社会保障制度	医療と社会	1	20	1					
		社会福祉学概論	1	15			1			
		社会福祉学方法論	1	15				1		
		看護関係法規	1	15					1	
		公衆衛生学	1	15						1
	健康運動論	1	30						1	
②小計			22	575	8	7	2	2	1	2
授業科目			単位	時間	1年次		2年次		3年次	
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30	1					
		看護学概論Ⅱ	1	30						1
		看護基礎技術Ⅰ	1	30	1					
		基礎看護技術Ⅱ	1	30	1					
		日常生活援助技術Ⅰ	1	30	1					
		日常生活援助技術Ⅱ	1	30		1				
		診療に伴う技術Ⅰ	1	30		1				
		診療に伴う技術Ⅱ	1	30		1				
		臨床につなげる看護技術Ⅰ	1	30			1			
		臨床につなげる看護技術Ⅱ	1	30				1		
		看護研究の基礎	1	15	1				1	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	1	30	1					
		地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30			1			
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	15				1		
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	15						1
		地域・在宅看護技術	1	30				1		
	成人看護学	成人看護学概論	1	30		1				
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30			1			
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30			1			
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30				1		
	老年看護学	成人看護学技術	1	30			1			
		老年看護学概論	1	30			1			
		老年看護学方法論	1	30			1			
	母性看護学	老年看護学技術	1	30				1		
		母性看護学概論	1	30		1				
		母性看護学方法論	1	30			1			
	小児看護学	母性看護学技術	1	30				1		
		小児看護学概論	1	30		1			1	
		小児看護学方法論	1	30			1			
	精神看護学	小児看護学技術	1	30				1		
		精神看護学概論	1	30		1				
		精神看護学方法論	1	30			1			
	領域横断	精神看護学技術	1	30				1		
		看護的思考の基礎	1	30	1					
		看護と療法	1	30				1		
		家族看護学	1	30			1			
		医療安全	1	15		1				
		看護倫理	1	30		1				
	看護の統合と実践	専門職連携とチーム医療	1	15						1
		看護管理	1	30					1	
		災害看護	1	15						1
		看護技術統合	2	60					2	
③小計			43	1200	7	9	11	9	3	4
①②③計			80	2180	19	18	18	12	5	8
授業科目			単位	時間	1年次		2年次		3年次	
実習	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	30	1					
		基礎看護学実習Ⅱ	1	45		1				
		基礎看護学実習Ⅲ	2	90		2				
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ	3	145	1					2
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90						2
	成人看護学	成人看護学実習Ⅰ	4	290					2	
		成人看護学実習Ⅱ	2	90					2	
	老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	4	290					2	
		老年看護学実習Ⅱ	2	90					2	
	母性看護学	母性看護学実習	2	60				2		
	小児看護学	小児看護学実習	2	90				2		
	精神看護学	精神看護学実習	2	90					2	
④小計			23	990	2	3	0	4	12	2
総合計			103	3170	21	21	18	16	17	10

3) 学年目標

ディプロマポリシー	学年目標		
	1 年次	2 年次	3 年次
一. EBM に基づいた看護を選択し、対象に適した看護の提供ができる能力を身に付けています	1. 対象をホリスティックな存在であり、生活する者として捉え、対象の生活に対する思いに気付く	1. 各発達段階にいる対象がどのような生活を送りたいか考える	1. 対象をホリスティックにとらえ、多様な価値観を持つ対象が望む生活に対して関心をもってかかわることができる
	2. 知識をつなげ、看護技術の根拠を明らかにしたうえで、正確な技術を身に付ける 3. 対象のニーズを満たすために看護技術提供の考え方を使って看護技術を提供する	2. 各発達段階、各病期、症状、各療法を行っている対象に必要な看護を考え、安全・安楽に提供する	2. 対象に適した看護の実践のために、安全・安楽・自立を考えた技術の提供ができる
二. 看護職者として自らの役割を自覚しチームで協働するための能力を身に付けています	4. チーム医療の必要性和チームの一員としてのあり方を理解する 5. 看護としての考え方を学び、看護師の役割を考える	3. チーム医療における協働・連携を理解し、協働を経験する 4. チーム内で看護師として考え、看護師としての意見を発信できる	3. 対象のより良い生活のためにチームとして連携し、看護専門職としての役割を理解して協働できる
	6. 技術を提供するための技術の考え方と看護過程を理解し、対象にその思考を使って看護を提供する 7. 患者の変化に気づくことができる	5. 看護行為に至る思考過程と臨床判断モデルにおける臨床判断の思考を使って看護を考え提供する	4. 対象に適した看護の実践を考えるため看護における臨床判断の思考過程を使って看護を考え提供することができる
四. 行為の省察や自己の振り返りのためにメタ認知の基礎的能力を身に付けています	8. 自分が行っていることを全体的にとらえその中での位置づけを理解する。 9. 物事を私ではない主語で考える	6. 他者のアドバイスを受け入れ、自分の行動を振り返る 7. 自分が感じている感情に自分自身が気づく	5. 自己の体験を振り返り、その体験の意味とその体験からの学びを明らかにすることで、経験として客観視できる
	10. 自らの看護職者としてのゴールを明らかにし、ゴール	8. 学習課題、自己の課題を発見できる	6. 課題を見出し、主体的に学ぶことができる

意思で学ぶことができるための能力を身に付けています	に向けての道筋を描く	9、学びを深めるための道筋がわかる	7. 看護専門職としての自覚を持ち規範を守ることができる
六. 人間の尊厳を尊重する看護について、探求、創造し続けることができるための能力を身に付けています	11、人間の存在を肯定することの重要性と自ら成功体験を積み重ねることでの自己効力感を感じることができる 12、看護師として倫理的であることの必要性がわかる	10、人間存在の肯定を基盤に自己と他者の関係を構築する 11、看護として尊厳を尊重する行動を考える	8. 人として存在することの重要性を理解し、自己の肯定を意識化することで、他者を尊重した行動をとることができる
	13、最善の看護とは常に対象に応じて変化するものであり、その変化のなかで進化させていくものであると理解する	12、対象が望む生活の実現のためにさまざまな資源を知り、必要な看護を考える 13、対象に行った看護を振り返り、次に生かす	9. 習慣や慣習に縛られず、その人の望む生活に合った看護を創造することをやめない

令和7年度 学年歴

	1 年	2 年	3 年	日 程
入学式	2			令和7年4月3日(木)
入学後教育	8			令和7年4月4日(金) 4月7日(月) 4月8日(火)
戴帽式	8			令和7年10月23日(木)
卒業式	4	4	8	令和8年3月5日(木)
オリエンテーション	16 16 26	2 16 34	16 32	実習オリエンテーション・長期休暇前後オリエンテーション他
解剖見学		8		令和7年5月13日(火) 20日(火) 27日(火) 内1日予定
学校祭 (文化祭)	16	22		令和7年6月7日(土)
(運動会)	8	8	6	令和8年2月19日(木)
宿泊研修	10			令和7年10月10日(金)～10月11日(土)
就職ガイダンス (就職フォーラム含む)	6	8		就職フォーラム 令和7年 12月16日(火) 就職ガイダンス 1年生(1回/年3月) 就職ガイダンス 2年生(2回/年7月・2月)
健康診断	4	4	4	1年生 令和7年4月17日(木) 2年生 令和7年4月16日(水) 3年生 令和7年4月10日(木)
特別講義 (聖マリア病院周産 期見学・講義)		6		令和7年12月9日(火)
防災訓練	4	4	4	令和7年9月2日(火)
国家試験対策	8	24	50	時間割参照
看護師国家試験				令和8年2月15日(日) 予定
夏季休業				令和7年7月30日(水)～8月26日(火)
冬季休業				令和7年12月23日(火)～令和8年1月5日(月)
春季休業				令和8年3月18日(水)～3月31日(火)
	136	140	120	

授業科目	情報科学	講師名	大久保 博		
	開講年次：2 年次前期	単位	時間数		
		1	30 時間		
授業科目 目標	情報通信技術（ICT）の活用のための基礎的知識を理解し、情報リテラシーを身につけることをねらいとする 1. 情報と情報化社会についての基礎知識を理解する 2. 情報を臨床の現場で活用するための方法を理解し、実践する 3. 情報の取り扱いについて、対象及び自己を守ることの必要性和手段を理解する 4. 情報を活用するための統計的手法の基礎を学ぶ				
ねらい	情報通信技術（ICT）の活用のため情報科学の基礎知識を身につけ、社会調査や情報検索を通じて情報処理について学ぶ。さらに、情報と社会の関連について考え、看護師として臨床現場に生かすキャリア・トレーニングの方法を学ぶ。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 情報と情報化社会の基礎	① 情報の定義 ② 情報化社会			2	講義 <

授業科目	人間関係論	講師名	岡村 尚昌	
	開講年次：2年次前期	単位	時間数	
		1	30 時間	
授業科目 目標	1、人と人が関わる中での人間関係における基本的な理論や人間関係構築の考え方を学ぶ。 2、言語的・非言語的コミュニケーションを通して相手の行動の変容を試みる人間関係の方法を知ること、受容と共感について学ぶ。 3、社会生活をしていく中で経験する、自分では処理しきれない困難や悩みに対して、人間関係をもとに問題解決のためのカウンセリングの理論と技法を学ぶ。			
ねらい	保健医療、社会福祉などの援助は、援助を必要とする人たちと援助の任に当たる専門職との間の密接な人間関係の上に成り立つものである。また、人間関係が個人の行動に及ぼす影響を知ること、医療事故防止にも役立つものである。看護の専門教育の基礎として人間関係の知識とカウンセリングの理論とスキルを学習する。			
授業計画				
単元名	教育内容	時間	方法	
1、人間関係論の基本的視点	1、人間関係の基本的な役割	2	講義	
2、自分と他者の関係性	2、自己と他者の関係性 ・主体的自我と客観的自我 ・発達とともに変化する他者との関わり	4		
3、自分と他者のコミュニケーション	1、他者とのコミュニケーション ・他者との良好なコミュニケーション ・学生の人間関係の特徴	4		
4、職場の人間関係、職場のストレス	1、職場の人間関係 ・情緒的関係と機能的関係 ・公式（フォーマル）の関係と非公式（インフォーマル）の関係 ・職場のストレス	4		
5、集団や人間関係が個人の判断や行動に及ぼす影響	1、集団における人間特性 ・社会的手抜き ・集団の圧力 ・権威勾配 ・リスクシフト	4		
6、カウンセリングの目指すもの	1 各種理論の特質 ② 人間関係に関する研究 ② 各種理論の特質	2		
7、総括	2 カウンセリングの技法 ③カウンセリングの定義と種類 ④カウンセリングの実際Ⅰ ⑤カウンセリングの実際Ⅱ ⑥カウンセリングの実際Ⅲ ⑦危機的状況の理解とその援助Ⅰ ⑧危機的状況の理解とその援助Ⅱ ⑨自分自身とのよりよい関係づくりのために まとめ	8 2		
<備考> *本講義ではできる限り学生の主体性を重視し、自ら問題を解決できるよう雰囲気づくりをする				
評価方法及び 評価基準	筆記試験70% レポート30%			
テキスト	講師作成			
参考文献	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 長谷川浩編 医学書院			

基礎分野

令和7年度(2025年)

授業科目	人権論	講師名	信友 浩一		専門領域
					医師 (病院(呼吸器内科)にて勤務)
	開講年次：2 年次前期	単位	時間数	実務経験年数	
1		30 時間	12 年		
授業科目 目標	自らの職業を天職と思えるようになる				
ねらい	すべてのことを他人事と感じない自分になる				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
第1 講	医療の対象；病人/患者			2	講義
第2 講	医療の構造；外道の医療/本道			2	
第3 講	看護の原点；看護/患護			2	
第4 講	『抑制廃止福岡宣言・1998』；老人に自由と誇りと安らぎを			2	
第5 講	集団生活の原則；対等な関係を継続させる方が楽、そして楽しい			2	
第6 講	助けを求めて来た人と対等な関係を創ってる？；個人の尊重&平等			2	
第7 講	個人の尊重&平等原則【基本的人権】；リハビリとは？			2	
第8 講	人間らしく生きたい；生存権			2	
第9 講	こころの自由は渡さない；精神的自由権			2	
第10 講	自己決定権；産む/産まない・治す/治さない			2	
第11 講	NO！と言わせて・本音を聴いて；表現の自由			2	
第12 講	障害者という人はいない；環境がその人を障害者になっている！			2	
第13 講	あなたの為に言ってるの！；人偏 + 為=>偽り・貴方の本心は？			2	
第14 講	見立て、そして腑に落ちる			2	
第15 講	天職とは；天職とは思えない人はどのように働いたら良いか			2	
<備考> 本心で話しても怖くない場であることを実感してください					
評価方法及び 評価基準	テストで60%以上正解				
テキスト	購入不要、図書室保管の「人権入門」法律文化社				
参考文献	なし				

授業科目	生命倫理	講師名	中村 憲司		
	開講年次：2 年次後期	単位	時間数		
		1	30 時間		
授業科目 目標	1、生命に関する倫理的問題（生命科学と保健医療の道徳的諸次元―道徳的展望、意思決定、行為、政策を含む）の実際を知る。 2、生命に関する倫理問題を討議し、自分たちの問題として捉える。				
ねらい	現代が抱える生命に関する倫理的問題を実際を知り、医療現場で直接かかわることが多い倫理的問題を討議し、自分たちの問題として捉える。				
授業計画					
	単元	内容	時間	方法	
1.	生命倫理とは 生命倫理を学ぶ意味	①生命倫理の流れ 一人間の生命活動と医療技術の進歩	2	講義 GW	
2.		①医療倫理の必要性 一医療が人間と社会に真に健康と			
3.		幸福をもたらすものであるために			
4.					
5.	生命誕生における医学の介入	①人工授精	8		
6.		②体外受精			
7.		③再生医療とクローン人間―人間の尊厳性			
8.		④生殖技術の商品化（代理母）			
9.	生を断つことへの医学の介入	①胎児と人― 胎児は人ではないのか	6		
10.		②人工妊娠中絶			
11.		③選別出産			
12.					
13.	死への医学の介入	①脳死と心臓死 一臓器移植について	6		
14.		②安楽死 一いのちの「終わり」は誰が決めるのか			
15.		③尊厳死 一尊厳ある生、尊厳ある死			
		④医療と宗教 一死生観を考える			
	まとめ	上記について、一つテーマを決めディベートを行う	2		
評価方法及び 評価基準		ワークシート記入状況：30 点 筆記試験：70 点			
テキスト		「はじめて学ぶ生命倫理」 筑摩書房			
参考文献		講師より紹介			

授業科目	看護と英語	講師名	井浦 葉子	
	開講年次：2年次前期	単位	時間数	
		1	30 時間	
授業科目 目標	1、ナイチンゲールの著書である「看護覚書」を原著で講読することで看護の本質に触れ、看護を考える基盤する。 2、基本的な医療英会話を学び、楽しみながら異文化を理解する。			
ねらい	ナイチンゲール書簡集を原著で読解することで、看護の意味を英語で理解していくことを学び看護の本質を原著で理解する。また、英語学として言語の形式や意味、更に英国文化に親しみをもてる授業の展開を行う。 一般的に使われる医学英語を理解し、臨床の現場で理解できるための基礎低能力を養う。			
授業計画				
教育内容			時間	方法
1. Notes on Nursing: what it is, and what it is not ①テキストの精読を通してナイチンゲールの看護理念を読み解く ②自らが体験した看護を振り返り、原著を読み意味を考える			10 4	講義 演習
2. 英語（言語）のメカニズムを理解				
3. 英国文化における人間と社会の関係 ① 参考文献や資料を用いて、ヴィクトリア朝の時代背景を学ぶ ② 西洋の文化に関する解説を行う ③ 英語の文献に触れる機会をもてるようにする			8	
4. 医療で使う英語 ① 医療関係の英語を覚えて使えるようになる。			8	
5. 筆記試験 テキスト、および配布したプリントから問題を作成する				
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点			
テキスト	原文 看護覚書 現代社			
参考文献	講義で講師が紹介			

授業科目	法学	講師名	石川 真人		
	開講年次：2 年次前期	単位	時間数		
		1	15 時間		
授業科目 目標	法律の基礎を学び、医療と法学の関係について理解する。				
ねらい	看護職に就こうとする者は、いざ医療過誤訴訟が発生した場合に、法律上どういうことが問題となり、裁判所はどのような判断を下すのかを知っておくべきであろう。本講義では、まず、法学の基礎を理解したうえで、実際に生じた裁判例を学ぶ。そのことによって紛争を未然に防ぐことも可能となろう。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 法とは何か	①法と常識 ②法と道徳 ③法と強制			2 2 2	講義
2、裁判と法	①民事事件と刑事事件 ①証明責任			2 2	
3、医療過誤訴訟	①東大梅毒輸血事件における過失 ②未熟児網膜症姫路日赤事件における医療水準 ③レンバール事件における因果関係			4	
5、まとめ				2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験（80％）と小レポート（20％）の内容を総合的に評価する。小レポートは、授業終了後、感想や疑問などを書いてもらい、次の週に答えるという形で、聴講者の意見を授業内容に反映させる（参加型の授業にする）ためのもの。評価基準は授業内容の理解度。				
テキスト	教科書は使用せず、講師作成のプリント教材を配布する。				
参考文献	必要に応じて講義の中で指示する。				

授業科目	疾病と治療Ⅴ (小児、精神疾患)	講師名			専門領域 : 医師 病院 (小児科) にて勤務)	
					実務経験 年数 年	
			深堀 優		専門領域 : 医師 病院 (小児科) にて勤務)	
					実務経験 年数 27 年	
	開講年次 : 2 年次前期		単位	時間数		
		1	30 時間			
授業科目 目標 (ねらい)	1、精神疾患と小児疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。					
授業計画						
単元名		教育内容			時間	方法
《小児疾患》 14 時間 () (深堀先生)		1. 主な疾患の症状と治療 ①染色体異常 ②内分泌疾患と代謝性疾患 ③アレルギー疾患 ④感染症 ⑤呼吸器疾患 ⑥循環器疾患 ⑦消化器疾患 ⑧血液、造血器疾患 ⑨悪性新生物 ⑩腎、泌尿器疾患 ⑪神経疾患 ⑫運動器疾患 試験			14	講義
《精神疾患》 (吉良先生) 16 時間		1. 精神症状及び状態像 ①思考の障害 ②感情の障害 ③知覚の障害 2. 精神障害の診断と分類 ①統合失調症 ②気分(感情)障害 ③神経症性障害 ④生理的障害 ⑤パーソナリティ障害 ⑥器質性精神障害 ⑦心身症 3. 精神科治療 ①身体療法 ②精神療法 ③行動療法およびリラクゼーション ④環境・社会療法 ⑤集団精神療法 ⑥家族療法 4. 社会の中の精神障害 ①精神障害と治療の歴史 ②日本における精神医療 ③精神障害と文化 ④精神障害と社会学 ⑤神障害と法制度 試験			16	
評価方法及び 評価基準		小児疾患 精神疾患	筆記試験 筆記試験	100 点 100 点	最終評価は 2 科目の平均点で評価する	

テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 【小児疾患】 小児看護学 小児の疾患と看護 【精神疾患】 精神看護学 精神障害と看護の実践
参考文献	

専門基礎分野

令和7年度(2025年)

授業科目	疾病と治療Ⅵ 〔眼科疾患 耳鼻科疾患 歯科口腔疾患〕	講師名	井上 浩利		専門領域 : 医師 病院 (眼科) にて勤務)	
			富田 和英		実務経験 年数 22 年	
			羽野 和宏		専門領域 : 医師 病院 (耳鼻咽喉科) にて勤務)	
					実務経験 年数 28 年	
	開講年次 : 2 年次前期		単位	時間数		
		1	15 時間			
授業科目 目標 (ねらい)	1、眼科疾患、耳鼻咽喉器疾患、歯科口腔疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。					
授業計画						
单元名		教育内容			時間	方法
《眼科》 (井上講師)		1. 目の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病と治療 ①屈折・調節の異常 ②結膜の病気 ③角膜の病気 ④水晶体の病気 ⑤網膜の病気 ⑥ぶどう膜の病気			6	講義
《耳鼻科》 (富田講師)		1. 耳鼻咽喉の構造と機能 2. 症状と検査 3. 主な疾病と治療 ①耳疾患 ②鼻疾患 ③咽喉疾患			4	
《歯科口腔》 (羽野講師)		1. 歯・口腔の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾病の予防・治療 ①齲蝕及び歯周疾患 ②口腔領域の腫瘍			6	
評価方法及び 評価基準		眼科 (30 点)、耳鼻科 (30 点)、歯科口腔 (40 点) 筆記試験 合計 100 点				
テキスト		メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護 ; 脳・神経機能障害/感覚機能障害 疾患と看護 ; 眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚				

授業科目	社会福祉学概論	講師名	泉 賢祐		専門領域
					社会福祉士 (病院にて社会福祉士として勤務)
	開講年次：2 年次前期	単位	時間数	実務経験年数	
1		15 時間	16 年		
授業科目 目標 (ねらい)	1. 社会福祉の変遷や基本理念・概念を理解し社会保障制度の内容とその背景を理解する。 2. 人々が生涯を通じて健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基本的能力を養う。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 現代社会と社会福祉・社会保障	①生活上の事故と社会保障・社会福祉 ②「社会の制度」としての社会保障・社会福祉の分類 ③社会福祉サービスへのニーズの拡がり地域包括ケアシステム			2	講義
2. 暮らしと社会保障・社会福祉				2	
3. 社会保険制度				6	
	①年金制度 ②医療保険制度	2			
	③介護保険制度 ④雇用保険制度 ⑤労災保険制度	2			
		2			
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点				
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 社会福祉と社会保障				
参考文献					

授業科目	社会福祉学方法論	講師名	泉 賢祐		専門領域
					社会福祉士 (病院にて社会福祉士として勤務)
					実務経験年数
	開講年次：2 年次前期	単位	時間数	16 年	
		1	15 時間		
授業科目 目標 (ねらい)	社会福祉の法制度及びその活用方法を理解し、臨床現場での他職種との連携に役立てることができる。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 社会福祉の仕組みと社会資源	①社会福祉サービスの体系と提供組織 ②社会福祉の担い手と役割 ③社会福祉と看護の連携 ④社会福祉の活用方法 ⑤社会福祉実践			4	講義
2. 対象別に見た社会福祉	①子ども・家庭の福祉 ②障害児・者の福祉 ③高齢者の福祉			6	
3. 生活保護	①公的扶助制度 ②生活保護における生活保障 ③生活困窮者対策と生活保護の見直し			4	
4. 事例で学ぶ社会福祉サービス	①事例を通して社会福祉と社会保障の実際を学ぶ			2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点				
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ メディカ出版 ナーシング・グラフィカ	社会福祉と社会保障 看護をめぐる法と制度			
参考文献					

専門分野

令和7年度(2025 年)

臨床につなげる看護技術 I	講師名	熊添 智春		専門領域 : 看護師 (病院にて看護師として勤務)	
				実務経験	年数 20 年
開講年次：2 年前期		単位	時間数		
		1	30 時間		
目標					
1、看護判断を行うための思考過程を学び、シミュレーションを通して活用する。 2、さまざまな健康上のニーズをもつ人々に、既習の個々の知識を統合し、対象の状態と対象に適した看護の実践を判断した上でシミュレーションをしながら学ぶ					
ねらい					
患者に見られる症状や行われている治療を、解剖生理学・病態・治療（薬物療法）を、一連の流れとして理解し看護の方向性を論理的に導き出すことを行う。「看護行為に至る思考過程」を学び、その思考過程を使って実際の看護場面を想定して、必要な看護を考えシミュレーションを行う。対象に「今、必要な看護は何か」について病態を結びつけながら考え、看護実践につなげていく。シミュレーションの実践後に、自分の行為・思考・感情などについて目標にそって振り返る時間を重要視し、臨床で生きる看護実践についての考え方を身につけてほしい。					
具体的内容					
回数	内容			方法	
1	看護実践を導く出すために必要な思考過程を学ぶ ①看護行為に至る思考過程について ②臨床の場面から看護師として必要な考え方を学ぶ クリティカルシンキングを使って考える 事例：胃がん患者の看護			講義	
2	事例を解釈（病態、病期、治療、術後合併症） 知識確認			グループワーク (TBL) 小テスト	
3	腹腔ドレーン挿入部の処置 一般的に術後に腹腔ドレーンが行われる理由 ドレーン挿入中の看護の実際			グループワーク 小テスト	
4	間接的情報収集→アセスメント→直接的情報収集 ①情報収集にいくにあたってどのような情報を知ろうとしているのか ②何を明らかにしようとしているのか ③実際に患者の状態を判断するために何を観察するか ④観察した情報をもとに何を判断するか			グループワーク	
5	シミュレーションの実際 1 ①ブリーフィング（導入）		1 回目 ①～③	演習	
6	②シミュレーション（実践）術後 2 日目の場面		2 回目		
7	シナリオ課題の実践（術後 2 日目の VS）		①～④		
8	③デブリーフィング 状態のアセスメント 観察の優先順位 ④評価・まとめ		改善点を追加して実践した後に ④を行う		

9 10	シミュレーションの実際 2 シナリオ課題の実践（術後 2 日目の VS の報告 SBAR） ①～④繰り返す	1 回目 2 回目	演習
11 12 13 14 15	シミュレーションの実際 3 シナリオ課題の実践（術後 2 日目の離床） ①～④繰り返す	1 回目 2 回目	演習 GW
評価方法；筆記試験 90 点 小テスト・授業中の参加状況 10 点 100 点			
教科書；テキスト配布			
参考図書：授業で提示します			

授業科目	臨床につなげる看護技術Ⅱ	講師名	池田 陽子		専門領域 : 看護師(病院にて 看護師として勤務)
	開講年次 : 2 年後半	単位	時間数		
		1	30		
授業科目 目標	1. 臨地に近い状況で看護を学び複数患者を受け持ち、優先順位を判断し実施することが出来る判断力を習得する。 2. 医療機器を装着している患者の観察と判断力・マネジメント力・実践のためのコミュニケーション能力を学ぶ。				
ねらい	医療機器を装着している患者に対する観察の視点を明確にし、観察力を身につけてほしい。また、臨床の場に最も近い状況で患者の観察やケアを実施できるために、医療機器を装着し医療処置を必要とする患者を複数受け持つ場合の観察力、判断力(実施項目の判断・優先順位の判断)、マネジメント力、実践のためのコミュニケーション能力を習得することを目的とする。				
授業計画					
回数	教育内容		意図		方法
1	1、オリエンテーション 1) 目的・目標・進め方 2、科学的根拠に基づいた観察 1) 4つの事例を提示する 2) 事例について自己学習		臨床の場では、同時に複数の患者を受け持ち看護を行うことになる。そこで、複数の患者一人ひとりの状態を把握しながら、複数の患者を受け持った場合の観察の視点や患者の状態によるケアの優先度決定、状況に対する対応を体験的に学ぶことを目的とする 1) 事例の設定 事例については、卒業時の到達度を元に医療処置を必要とする患者の事例とした。		講義
2	1、事例の理解 1) 観察の視点理解 ・事例1～事例4までの観察の視点をまとめる		1) 観察の視点理解 複数の患者の観察を実施する前に、一つ一つの事例について観察ポイントがわかり、確実に観察することができる。		演習
3 4	1、看護技術の習得 1) 観察の実施 ・事例1～4の観察の練習		1) 観察の実施 フィジカルアセスメントおよび医療機器のチェック方法を身につける。		
5 6	1、的確な判断とマネジメント 1) 観察の評価 ①事例1～4の観察チェック ・アールームに4つの事例を設定し、1～4の事例中1事例で観察したことを挙げる		1) 観察の評価 4つの事例について、観察点を理解し、観察ができたかを評価する テスト項目については、状態変化を設定し観察の内容を評価する		
7 8 9	1、医療機器の取り扱い 1) 事例1～4の医療機器の取り扱い 演習 ; 医療機器の取り扱い 輸液ポンプ・シリンジポンプ・ 心電図モニター・人工呼吸器 胸腔ドレーン挿入部の処置(観察)		1) 事例の医療処置に伴い必要とされる診療の補助技術を身につける(モデル人形に対して)		
10 11 12 13	1、グループで演習 1) 事例1～4を同時に受け持った場合の様々な場面における対応方法を考える(グループで) R P 事例1 : 受持ち部屋の患者観察 R P 事例2 : 立腹されている患者の点滴静脈内注射の抜針と針の刺入、点滴 R P 事例3 : AEDの使用、胸腔ドレーン挿入中の移乗 R P 事例4 : 人工呼吸器アラームと胸腔ドレーンのトラブル 1、ロールプレイング 1) 事例をグループ毎に配布し、グループで対応を考えクラス全員に発表する 2) ロールプレイングの結果について、クラスで話し合う		1) ロールプレイングについては、今まで学んできた、観察の視点および診療の補助技術を活用して実施する ・実際の患者と同様に患者とのコミュニケーションを図りながら実施できる。また、患者の心理状態を考えながら行動する ・優先順位を決定する際には、その根拠を明確にする ・一人で判断や解決できない事に対して、他のスタッフに相談や依頼する ・ロールプレイングの結果について、話し合いをすることで事例の解釈および対応について深める。 ・他の事例について、クラスで話し合うことで学びの共有をする 2) テストの事例は、看護技術とロールプレイングで学んだ項目を元にする。新しい事例により、判断力、コミュニケーション力を評価する		

14 15	技術チェック	①看護技術と判断、マネジメントをテスト項目とする ②事例1～4を同時2事例、受け持った場合の優先度を考慮した観察を客観的臨床能力試験で確認する	
<備考> - 前半は、胸腔ドレーン挿入患者、心電図モニター装着中の患者、人工呼吸器装着中の患者、点滴静脈注射の患者の観察の視点を学び、実際に観察ができることを目的とする。 その過程を経ることで、他疾患、状態の患者も観察できるための考え方を学ぶ。 - 後半については、実際の看護場面を設定し、その中で判断（患者の状態把握・適切な対応・優先順位・実施のためのマネジメント・コミュニケーション）する力を身につける。 また、複数患者を受け持つ看護の実践と統合実習に向けての準備段階とする。			
評価方法及び 評価基準	筆記試験 70%・技術チェック 30% *技術チェックは、合格するまで受験をしていただきます。 行動の意図を明確し、考えながら演習をすることをお勧めします		
テキスト	デジタルナースンググラフィカ 3巻・7巻・26巻・31巻・32巻・EX1巻・EX2巻・EX3巻を主に使用するが、他のテキストも柔軟に使用する		
参考文献	1) 山田 幸弘, 疾患別看護過程セミナー, 医学芸術社 2) 猪又 克子, 臨床看護技術パーフェクトナビ, G a k k e n 3) 関口 恵子, 根拠がわかる症状別看護過程, 南江堂 4) 山口 瑞穂子ほか監修, New疾患別看護過程の展開, 学習研究社 5) 田中 美智子, 呼吸器看護のフィジカルアセスメント, メディカ出版 6) 国立循環器病センター看護部, 標準循環器疾患ケアマニュアル, 日総研出版 7) 永井 秀雄, N u r s i n g M o o k 見てわかるドレーン&チューブ管理, 学習研究社 8) 鈴木 玲子, N u r s i n g M o o k 最新輸液管理, 学習研究社 9) 花田 妙子, 困ったときの心疾患患者の看護, 医学書院 10) 山瀬 博彰, 救急看護学, 医学書院 11) 東口 高志, わかる・できる・注射・輸液・輸血・採血, 南江堂 12) 道又 元裕, 人工呼吸ケアなぜ何大百科, 昭林社 13) 初めての人工呼吸器, メディカ出版 14) 釘宮 豊城, 写真でわかる人工呼吸器の使い方, 医学芸術社 15) 坂東 興, 新人ナースの循環器 b a s i c, メディカ出版		

授業科目	地域・在宅看護概論Ⅱ	講師名	岩橋 千代	専門領域 : 看護師(緩和ケア認定看護師) 病院にて看護師として勤務 実務経験 年数 23 年
			秋吉 優希乃	専門領域 : 看護師・保健師(看護師・保健師として病院・地域包括支援センターに勤務) 実務経験 年数 19 年
			長尾 一樹	専門領域 : 看護師(認知症看護認定看護師) 病院にて看護師として勤務) 実務経験 年数 19 年
			単位	時間数
	開講年次 : 2 年前期		1	30 時間

授業科目目標

1. 在宅看護の対象となる人とその家族を理解する。
2. 療養者が生活する地域の特徴と地域が療養者、家族に及ぼす影響を理解する。
3. 在宅看護の対象となる人とその家族を支援するために必要な理論を理解する

授業計画

单元名	教育内容	時間	方法
1. 在宅看護の対象となる人とその家族 (岩橋先生)	1) 在宅看護の法的対象 ・介護保険制度 ・医療保険制度	8	講義
2. 地域で療養する人の理解 (岩橋先生)	2) 在宅で療養する療養者と看護の視点を学ぶ ①在宅で療養する高齢者 ・高齢者の在宅看護の視点 ②在宅で療養する難病患者 ・難病患者の在宅看護の視点 ③在宅で療養する小児 ・小児の在宅看護の視点		講義 DVD 視聴
(長尾先生)	④在宅で療養する精神疾患療養者 ・精神の在宅看護の視点	2	
(岩橋先生)	3) 家族を看護する 4) 地域を看護する	2 2	講義 グループワーク
3. 在宅看護で使う理論 (岩橋先生)	・ストレングス、エンパワーメント ・自己効力感 ・パートナーシップ	2	
4. 自己決定支援 (岩橋先生)	・権利擁護としての自己決定支援を調べる 在宅における自己決定支援 ①自己決定とは ②なぜ自己決定が必要か ③自己決定を支援するとは	2	

5. 在宅における看護での理論の実際 (秋吉先生)	1) 法的根拠を理解した訪問の実際 2) ストレングスを使った支援 3) 自己決定支援	6	
6.在宅における倫理 (秋吉先生)	1) 在宅における倫理的課題	2	
7. 在宅看護における医療安全と安全対策 (秋吉先生)	1) 在宅看護における医療事故と安全対策 ①在宅看護の現状 ②在宅看護における医療事故とその対応 ③在宅看護におけるリスク管理の現状と課題 ④高齢者施設、介護施設等での安全対策 ⑤在宅における災害看護	4	
<備考>			
評価方法及び評価基準	筆記試験で評価します 筆記試験 100点 配点 秋吉先生 (34点)、 長尾先生 (6点) 岩橋先生 (60点)		
テキスト	長谷川素美：在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版		
参考文献	長谷川素美：在宅看護概論②在宅医療を支える技術 メディカ出版 河原加代子：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院		

授業科目	地域・在宅看護方法論Ⅰ	講師名	福田 輝和	専門領域 : 理学療法士・介護支援専門員 (理学療法士として病院・訪問看護ステーションに勤務 介護支援専門員として居宅支援事業所に勤務)	
				実務経験 年数 28 年 (理学療法士) 年数 8 年 (介護支援専門員)	
			牛島 けい子	専門領域 : 看護師 (病院にて看護師として勤務)	
				実務経験 年数 25 年	
		秋吉 優希乃	専門領域 : 看護師・保健師 (看護師・保健師として病院・地域包括支援センターに勤務)		
				実務経験 年数 19 年	
	開講年次 : 2 年後期		単位	時間数	
		1	15		
授業科目 目標	1. 在宅で療養するためのシステムと制度を理解する ①地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置づけと役割を学ぶ ② ケアマネジメントの基礎と在宅で行われている実際を学ぶ ③ 地域クリティカルパスについて理解する ④退院支援・退院調整の必要性和、入院から退院後の生活を支援するための考え方を学ぶ。 2. 在宅療養者をチームで支えることの意味と連携協働を学ぶ 3. 事例を使い、在宅療養を支えるために訪問看護が行うアセスメント、直接的な看護技術の提供、家族支援等総合的に行うことができる。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1. 地域包括ケアシステム (福田先生)	1) 地域包括ケアシステム ①療養の場の移行に伴う看護 ②地域包括ケアシステムにおける多職種・他機関連携 ③在宅看護におけるケースマネジメント 「ケアマネジメントとケースマネジメントとは」			4	講義 グループワーク発表
2. 退院支援・退院調整 (牛島先生)	2) 地域を担う訪問看護ステーションについて 1) 退院支援・退院調整の必要性 2) 入院から退院後の生活 3) 療養の場の移行に伴う看護			4	講義
3. チーム医療 (秋吉先生)	1) 在宅ケアにおける多職種連携・協働 2) 在宅ケアにおける保険医療福祉チーム 3) 地域クリティカルパスについて			2	講義 演習
4. 在宅の事例を使った看護展開 (秋吉先生)	1) 事例を使い在宅療養を支えるために訪問看護が行うアセスメント、直接的な看護技術の提供、家族支援等総合的に行う			6	

<備考>	
評価方法及び評価基準	筆記試験で評価します 筆記試験 100 点 福田先生 (20 点) 牛島先生 (20 点) 秋吉先生 (60 点)
テキスト	長谷川翔：地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版
参考文献	長谷川翔：地域・在宅看護概論②在宅医療を支える技術 メディカ出版 河原加代子：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 木下由美子：新版在宅看護論

授業科目	地域・在宅看護技術	講師名	岩橋 千代	専門領域 : 看護師(緩和ケア認定看護師) 病院にて看護師として勤務
				実務経験 年数 23 年
			秋吉 優希乃	専門領域 : 看護師・保健師(看護師・保健師として病院・地域包括支援センターに勤務
				実務経験 年数 19 年
	開講年次 : 2 年後期		単位	時間数
		1	30 時間	
授業科目 目標	在宅で看護実践を行う際の技術提供の基本となる技術、日常生活援助技術診療の補助技術を具体的な事例を使いながら実践的に学ぶ。 1、在宅療養を支えるための基盤となる訪問技術や在宅看護過程、コミュニケーション技術を学ぶ。 2、日常を支える生活の中で行う看護技術を学ぶ。 3、療養を支える医療ケアの技術を学ぶ。 4、在宅看護に必要な理論を理解し、在宅における看護過程を学ぶ			
授業計画				
単元名	教育内容			時間 方法
1. 地域・在宅看護技術 基本技術 (秋吉先生)	1. 訪問を支える技術 1) 基本技術①訪問の技術・コミュニケーション・初回訪問の面接時 演習 : 初回訪問のロールプレイング・振り返り			4 講義 演習
2. 地域・在宅看護技術 日常生活援助技術 (秋吉先生)	2. 日常生活援助技術 生活を支援するための基本的な視点 1) 日常生活援助技術【環境】事例を使って学びを進める 2) 日常生活援助技術【栄養】生活を支援するための基本的な視点 3) 日常生活援助技術【排泄】生活を支援するための基本的な視点 4) 日常生活援助技術【清潔】生活を支援するための基本的な視点 5) 日常生活援助技術【移動】生活を支援するための基本的な視点 演習 : 移動 清潔 (在宅での洗髪・清拭)			8 講義 演習
3. 地域・在宅看護技術 診療の補助技術 (岩橋先生)	3. 在宅における医療処置に伴う技術 1) CAPD 2) 在宅経管栄養法 3) 在宅酸素療法 4) 在宅人工呼吸療法 5) ストーマケア			8 講義 演習

4. 在宅看護過程 (秋吉先生)	6) 褥瘡 演習： 褥瘡を判断する ストーリーマケア 在宅看護における学習支援 療養者と家族への療養指導 1) 在宅看護過程の特徴 ①在宅看護過程の構成要素 ②情報収集・アセスメント計画立案 ③看護記録と評価 2) 在宅看護過程の実際	10	
<備考>			
評価方法及び評価基準	筆記試験で評価します 筆記試験 100点 岩橋先生：60点 秋吉先生：40点		
テキスト	長谷川翔：地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版		
参考文献	長谷川翔：地域・在宅看護概論②在宅医療を支える技術 メディカ出版 河原加代子：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 木下由美子：新版在宅看護論		

専門分野

令和7年度(2025年)

授業科目	成人看護学方法論Ⅰ (急性期・回復期)	講師名	日高 朋果	専門領域 : 看護師 (病院にて看護師として勤務) 実務経験 年数 17 年
			草場 昂	専門領域 : 看護師 (病院にて看護師として勤務) 実務経験 年数 14 年
			中野 弘貴	専門領域 : 看護師 (病院にて看護師として勤務) 実務経験 年数 14 年
			単位	時間数
			1	30 時間
開講年次 : 2 年次前期				
授業科目 目標	1、急性期にある成人の患者の特徴を理解し、手術療法をうける患者への看護援助や生命の危機的状況にある患者への看護援助を学ぶ。 2、回復期の成人の患者のセルフケア再獲得の看護介入について学ぶ。 3、事例をもとに急性期・回復期の患者を看護するための看護における臨床判断を学ぶ。 4、事例をもとに急性期・回復期の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。			
ねらい	急性期や回復期にある成人の患者と家族に対して、生命の危機を乗り越え、回復に向かうために必要な看護を学ぶ			
授業計画				
单元名		教育内容	時間	方法
1	I. 麻酔と看護 (日高先生)	1. 麻酔とは 2. 全身麻酔の看護 (導入時、覚醒時) 3. 局所麻酔法の種類と看護	2	講義
2	II. 周手術期の看護 1. 周手術期の対象と倫理的課題 (日高先生)	1. 周手術期とは 2. 手術を受ける人の特徴 3. 侵襲と生体反応における臨床判断 4. 手術とインフォームドコンセント 演習 : グループ討議で意見交換し周手術期医療における倫理的感受性を養う	2	講義 演習
3	2. 術中の看護 (日高先生)	1. 術中の看護 1) 安全な環境の管理 2) 手術体位が及ぼす影響 3) 術中の医療安全 (患者確認、体内遺残防止)	2	講義
4	3. 手術室の実際 (日高先生)	1. 手術室環境 2. 手術室入室～麻酔覚醒までの看護の実際 *映像で手術室環境を学ぶ	2	講義 演習
5	4. 術前・術後の看護 術後合併症の予防と発症時の援助、回復に向けた看護 (草場先生)	1. 術前の看護 1) リスクアセスメント 2) 術前オリエンテーション 2. 術後合併症の要因や発生機序 3. 術後合併症の予防のための援助 4. 症状出現時の援助 事例 : 胃がん開腹手術	4	講義
6 7	5. 術後合併症の予防の実際と家族への援助 (草場先生)	1. 術後患者の部屋準備 2. 術後 1 日目の観察の実際における臨床判断 視点 : 間接的情報集から直接的情報収集の思考を実践 術後患者の観察技術を実践	4	講義 演習
8	回復期看護 (草場先生) IV. セルフケアの再獲得を必要とする対象	1. セルフケアの低下状態にある成人の理解 2. セルフケア再獲得を必要とする成人への看護 1) アセスメントの視点 2) セルフケア再獲得を支援する方法	2	講義
9 10	V. 急性期・回復期の看護における臨床判断 (草場先生)	1. 脳出血の病態と治療、看護 2. 急性期・回復期の看護における臨床判断 事例 : 49 歳男性 右視床出血 (急性期・回復期・家庭復帰期)	4	講義 演習
11	VI. 急性期・回復期の倫理的課題 (草場先生)	1. 「早期離床と患者の意思」について	2	演習
12 13 14	急性期患者の看護過程 (中野先生)	ヘンダーソンの看護観に基づいた看護過程 急性期患者の看護過程 乳がん患者事例 1) 情報収集 2) アセスメント (充足・未充足、常在条件、病的状態) 3) 関連図	6	講義 演習

		4) 全体像・看護上の問題抽出 看護計画立案・実施評価		
15	まとめ		2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点 講師が提示した課題を提出しなければ、単位認定はしない 1～4：日高先生（30 点） 5～11：草場先生（50 点） 12～14：中野先生（20 点）			
テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学②健康危機状況／セルフケアの再獲得 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④周術期看護			
参考文献	周術期の臨床判断を磨く 医学書院 北島政樹ほか、外科手術と術前・術後の看護ケア、南江堂 窪田敬一、ナースのための再新全科ドレーン管理マニュアル、照林社 坂本すが監修、術前・術後標準看護マニュアル、メヂカルフレンド社 竹田清、ゼロからはじめる麻酔&看護トレーニング、MC メディカ出版 道又元裕監修、イラストでわかる！ICU ナースの生体侵襲ノート、日総研 新見明子、根拠がわかる疾患別看護過程 病態生理と実践がみえる、南江堂 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 自分で描ける病態関連図 照林社 病態生理の基礎のキソ 学研 意味づけ経験知でわかる病態生理看護過程 日総研 疾患別看護過程セミナー 医学芸術社 臨床推論入門 メディカ出版 ワクワク謎解き事例でナットク看護過程（患者が見える、根拠がわかる、臨床で使える思考プロセス&看護判断） メディカ出版			
備考	授業時間前には事前に配布したワークシートを自己学習しておく。授業中に追加記入し、授業後は復習することで、学んでいきます。授業は反転学習を基本として行います。事前課題に取り組み、主体的な授業姿勢を期待します。病態関連図は、授業前の事前課題として疾患名を示します。自己で作成した病態関連図を基に事例学習を行います。			

専門分野

令和7年度(2025年)*

授業科目	成人看護学方法論Ⅱ (慢性期)	講師名	鐘江 竜子	専門領域 :看護師(病院にて看護師として勤務)	
				実務経験 年数 22 年	
			中野 弘貴	専門領域 :看護師(病院にて看護師として勤務)	
				実務経験 年数 14 年	
		開講年次 : 2 年次前期	単位	時間数	
			1	30 時間	
授業科目 目標	1、 慢性疾患を持つ患者と家族の特徴と看護として必要なセルフマネジメント支援を学ぶ 2、 セルフマネジメント支援に必要な理論を学び、事例を通して慢性期の患者を看護するための看護における臨床判断を学ぶ 3、 事例をもとに慢性期の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ				
ねらい	慢性期の病を持った成人の患者と家族が、生活者として病気や家庭、社会生活と折り合いをつけて生きていくことを看護としてどのように支援していくかを学ぶ				
授業計画					
単元名		教育内容		時間	方法
1	I. セルフマネジメントとは	1. 慢性病を持つ患者及び家族の特徴 2. セルフマネジメント支援の構成要素 3. セルフマネジメントを推進する看護方法		2	講義
2	II. 健康教育について	1. 看護における教育的支援 2. 学習理論の患者への活用		2	講義
3	II. セルフマネジメントの看護の実際 ・透析維持期の看護における臨床判断	1. 腎不全の病態と治療、看護 2. 透析維持期の看護における臨床判断 事例：腎不全に対する看護 成人期男性		2	講義 演習
4 5	・インスリン導入期の看護における臨床判断 (鐘江先生)	1. 糖尿病の病態と治療、看護 2. インスリン導入期の看護における臨床判断 事例：糖尿病の経過に応じた看護 53歳女性 演習 食事指導		4	講義 演習
6 7	・慢性期の看護における臨床判断	1. 潰瘍性大腸炎の病態と治療、看護 2. 指定難病に関する助成制度 3. 慢性期の看護における臨床判断 事例：潰瘍性大腸炎の患者の看護 慢性期・プレドニン療法 28歳女性		4	講義 演習
8 9	・慢性期・急性増悪の看護における臨床判断	1. 慢性心不全の病態と治療、看護 2. 慢性期・急性増悪の看護における臨床判断 事例：慢性心不全の経過に応じた看護 慢性期・急性増悪 58歳男性		4	講義 演習
10	慢性期看護における倫理的問題	1. 「食事制限と患者の意思」について		2	演習
11 12 13 14	ヘンダーソンの看護観に基づいた看護過程 事例：肝硬変 55歳男性	1. 肝硬変の病態と治療、看護 2. 看護過程の展開 アセスメント ― 看護計画 ― 実施・評価 3. 慢性期看護における倫理問題 4. 急な決断に対する意思決定		8	講義 演習
15	まとめ			2	
評価方法及び評価基準	筆記試験 100 点 4・5 鐘江先生 (10 点) 左記以外：中野先生 (90 点) 筆記試験及び課題、レポートの提出をしなければ単位認定はしない				
テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント				

参考文献	慢性疾患の急性増悪とその対応 学研 糖尿病患者のセルフマネジメント教育：エンパワメントと自己効力 安酸史子 メディカ出版
備考	授業時間前には事前に配布したワークシートを自己学習しておく。授業中に追加記入し、授業後は復習することで、学んでいきます。授業は反転学習を基本として行います。事前課題に取り組み、主体的な授業姿勢を期待します。 病態関連図は、授業前の事前課題として疾患名を示します。自己で作成した病態関連図を基に事例学習を行います。

授業科目	成人看護学方法論Ⅲ (緩和ケア・救急救命)	講師名	溝上 千代美		専門領域:看護師(緩和ケア認定看護師) 病院にて看護師として勤務
					実務経験年数 32 年
			吉宗 由美子		専門領域:看護師(病院にて看護師として勤務)
	開講年次: 2年後期		単位	時間数	
		1	30 時間		
授業科目 目標	1、緩和ケアの概念を学び、がん患者及び非がん患者への緩和ケアについて学ぶ 2、事例をもとに緩和ケアを行う患者、家族を看護するための看護における臨床判断を学ぶ 3、生命の尊厳や QOL 等、倫理的配慮を含め事例を通して、学ぶ 4、救急看護における知識・技術・態度を学び、臨床実践能力の向上を図る 5、救急看護における倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ				
ねらい	治療困難な状態にある対象の特徴を理解し、苦痛のアセスメントと疼痛コントロールのための緩和ケアを学ぶ。急性、重症患者における救急救命の看護を学ぶ				
授業計画					
単元名		教育内容			時間 方法
1	I. 緩和ケア 1. 緩和ケアの歴史と現状 (溝上先生)	1. 緩和ケアの歴史と現状 2. 緩和ケアの対象者の広がり 3. チーム医療 4. 非がん疾患の緩和ケア			2 講義
2	2. 緩和ケアにおける倫理的課題 (溝上先生)	1. 倫理学とは 2. 終末期患者の QOL とは 3. アドバンス・ケア・プランニング 4. 意思決定支援			2 講義
3	3. 緩和ケアにおける看護介入 (溝上先生)	1. 緩和ケアにおける看護介入 包括的アプローチ 日常生活を整えるアプローチ 個別性を整えるアプローチ 患者の潜在的な力を強める			2 講義
4 5	4. 終末期への看護 (溝上先生)	1. 終末期にある人の身体的特徴と援助方法 ①症状マネジメント 疼痛管理、疼痛以外の症状マネジメント 化学療法について 2. 終末期にある人の心理・霊的特徴と援助方法 3. 終末期にある人の社会的特徴と援助方法 4. 終末期看護における倫理的課題と対処方法 演習:「本人の意思と家族の意思が異なる」について話し合う			4 講義 演習
6	5. 臨死期のケア	1. 臨死期のケア ①がん終末期の症状と全身状態 ②症状や問題のアセスメントとケア ③苦痛緩和のための鎮静 ④臨終後のケア			2 講義

7 8	6. 家族ケア (溝上先生)	1. 終末期にある人の家族及び遺族の理解と援助 ①家族が辿る心理過程 ②家族アセスメントとケアの方法 ③遺族ケア	4	講義 演習
9 10 11 12	II. 救急救命看護 1. 救急救命の状況にある人の 看護 (吉宗先生)	1. 急性・重症患者の特徴 2. 心肺停止状態の対応 3. 気管挿管時の看護 4. 救急場面で遭遇する症例の看護	8	講義 演習
13 14 15	2. 救急場面における臨床判断 (吉宗先生) 3. 救急場面における倫理的 課題 (吉宗先生)	1. 救急場面における臨床判断 事例①：緊急入院を余儀なくされた会社員の男性 事例②：急性増悪により集中治療室に入室した男性 2. 救急場面における倫理的課題	6	講義 演習
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100 点 1～7：溝上先生 50 点 救急救命 8～14：吉宗先生 50 点、 ※筆記試験及びレポートの提出がなければ単位認定はしない			
テキスト	ナースিং・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア (溝上講師) ナースিং・グラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論 (吉宗講師) ナースিং・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況／セルフケアの再獲得 (吉宗講師)			
参考文献	授業で紹介します			
備考	授業の準備と授業後には学びの時間を取ってください。主体的な授業姿勢を期待します。 ＊救急救命の授業について 事前課題の提示をします。準備をして授業参加して下さい。教室講義及び演習室 演習時は講師が事前に指示した服装で準備すること（白衣又はジャージ着用）			

専門分野

令和7年度（2025年）

授業科目	成人看護学技術	講師名	中野 弘貴		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務）
					実務経験年数 14 年
			下川 裕		専門領域：理学療法士（病院（リハビリテーション科）にて勤務）
					実務経験年数 20 年
			小野 裕明		専門領域：臨床工学士（病院にて臨床工学士として勤務）
					実務経験年数 26 年
	開講年次： 2 年前期		半田 陽子		専門領域：（病院にて看護師として勤務）
					実務経験年数 21 年
			単位		時間数
		1		30 時間	
授業科目 目標	1、 障害を受けた人が、直接的環境及び社会で生活できるように行うリハビリテーションの実践を学び、看護としての看護介入を学ぶ 2、 疾患の検査や治療で行われる身体侵襲を伴う医療技術を医学的根拠を持って理解し、患者が合併症や二次障害を起こさないよう安全安楽な看護介入を学ぶ 3、 事例を通して医療処置を受ける患者を看護するための看護における臨床判断を学ぶ				
ねらい	成人期の看護実践を行う上で、治療、検査に対する看護は重要である。疾患の検査、治療に対して、安全、安楽に実施できるための看護技術を学ぶ。				
授業計画					
単元名		教育内容			時間 方法
1 2 3	医療機器のしくみと安全管理 (小野先生)	1. 医療機器の仕組み 2. 患者の安全を考えた医療機器の取り扱い 医療機器：輸液ポンプ、シリンジポンプ 心電図モニター、人工呼吸器、低圧持続吸引器			6 講義 演習
4 5	医療処置を受ける患者の看護における臨床判断 (半田先生)	事例：大腸がんでストマ管理を行う患者及び家族の看護 視点：ストマ自己管理に伴う観察（予防と対処）、看護 ストマ自己管理に伴う患者の心理的变化 演習 大腸がんストマ処置			4 講義 演習
6 7	身体侵襲を伴う医療技術時の看護 (中野先生)	1. 緊急状態に伴うアセスメント 事例：25歳男性 バイク走行中に交通事故で搬送 視点：臨床推論を使って患者の看護を考える 胸腔ドレーン挿入直後、挿入効果の判断、二次的障害の予防 2. ドレーン挿入時の看護における医療安全 視点：チューブ類のトラブルの原因と対処 (胸腔ドレーン、脳室ドレーン、腹腔ドレーン) 演習 ドレーン類の挿入部の処置			4 講義 演習
8	化学療法を受ける患者の看護 (中野先生)	事例 肺がん患者の化学療法の看護（外来で治療を行う患者の看護） 演習 人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防策の実施			4

9 10 11	・術後の創管理における臨床判断 (中野先生)	1. 創傷の治癒過程 2. 創傷の変化と観察・看護 演習：ガーゼ交換・洗浄	4	講義 演習
12 13 14 15	障害を受けた人のリハビリテーション (下川先生)	1. リハビリテーション概論 ①定義と理念 ②障害者の実態 ③障害の分類と構造 ④リハビリテーションの分野 ⑤リハビリテーションの医療システム 2. 運動器系の障害とリハビリテーション ①骨折 3. 中枢神経系の障害とリハビリテーション ①脳血管障害 4. 呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション ①慢性閉塞性肺疾患 ②心不全 演習 自動・他動運動の援助	8	講義 演習
評価方法及び 評価基準		筆記試験 100 点（下川先生 30 点・小野先生 15 点・中野先生 40 点・半田先生 15 点） ※筆記試験及び指定されたレポートの提出がなければ単位認定はしない		
テキスト		ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 ナーシング・グラフィカ成人看護学② 健康危機状況／セルフケアの再獲得 ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 （リハビリ講師） ナーシング・グラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論 （臨床工学士講師）		
参考文献		授業で紹介します		
備考		授業時間前には事前に配布したワークシートを自己学習しておく。授業中に追加記入し、授業後は復習すること で、学んでいきます。授業は反転学習を基本として行います。事前課題に取り組み、主体的な授業姿勢を期待し ます。 病態関連図は、授業前の事前課題として疾患名を示します。自己で作成した病態関連図を基に事例学習を行いま す。 演習室での授業の時間が、多くなります。ジャージ着用または白衣着用の事前説明をしますが、準備を行うよう にしてください。		

令和7年度(2025年)

- 31 -

2. 高齢者を取り巻く背景	3) 継続看護の必要性 7. 高齢者を支える制度 1) 高齢者を支える制度の全体像 2) 医療保健制度 3) 高齢者の医療の確保に関する法律に基づく制度 4) 介護保険制度 5) 公的年金制度 6) 生活保護制度 7) 成年後見制度 8) 日常生活自立支援事業		発表
3. 看護の対象（高齢者）	8. 高齢者を支える社会資源 1) 社会資源とは何か 2) サービスの内容・特徴からみた社会資源の種類 3) 社会資源を活用するために 4) 高齢者看護・介護とテクノロジー 9. 高齢者看護の特性 1) 看護する者の態度 2) 高齢者の特性からみた高齢者看護（演習：高齢者体験） 10. 高齢者看護に関する諸理論 1) 身体面に関する理論：老化理論 2) 心理社会面に関する理論 3) 高齢者看護に適用する理論・概念 ・エンパワメント ・ストレングスモデル 11. 高齢者看護における倫理 1) 高齢者の自己決定 2) 高齢者虐待と身体拘束 3) 高齢者の自己決定を尊重するために		演習 グループ ワーク 講義 演習
4. まとめ		2 時間/1 回	
評価方法および評価基準	1. 100 点満点 ①筆記試験（90 点） ②資料課題・レポート点（10 点）の総計 2. 「老年観」のレポート提出 ＊筆記試験は受験し、課題、レポートすべて提出して老年看護学概論の点数とします。 未提出の場合は、老年看護学概論の点数はありません。		
テキスト	ナーシンググラフィカ 老年看護① 高齢者の健康と障害 ナーシンググラフィカ 老年看護② 高齢者看護の実践		
参考文献	授業内で適宜紹介します		
備考	1. 高齢者を理解するには、授業の知識のみではイメージがしづらいので、 周りに生活する高齢者を意識しましょう。 2. テレビ、新聞等で高齢者のことについてのテレビ番組や新聞記事を読みましょう 3. DVD の鑑賞：積極的に自分の時間をつかい鑑賞しましょう ① 目で見える老年看護学 VOL1・2・3（高齢者の生理学）		

専門分野

令和7年度(2025年)*

授業科目	老年看護学方法論	講師名	馬田 聡美	専門領域 : 看護師 (病院にて看護師として勤務)
				実務経験 年数 34 年
			長尾 一樹	専門領域 : 看護師 (認知症看護認定看護師) 病院にて看護師として勤務)
				実務経験 年数 19 年
			林 利奈	専門領域 : 看護師・社会福祉士 (病院にて看護師として勤務)
				実務経験 年数 30 年
	開講年次 : 2 年前期	単位		時間数
1		30 時間		
授業科目 目標	1、高齢者の疾病・障害の病態を老化と関連して理解し、健康障害に応じた看護を理解する。 2、健康障害が高齢者と家族に与える影響を理解し予防、健康の回復及び対象が望む生活への看護支援を学ぶ。 3、高齢者の強みをふまえたアセスメントができ、個々の高齢者に応じた看護が展開できるための看護を学ぶ。 4、事例をもとに高齢者と家族の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。			
授業内容				
単元名	教育内容			時間 方法
1. 高齢者に多い疾患・症状を支える看護 (馬田先生)	1. 高齢者に起こりやすい疾患 ※加齢に伴う機能低下の特徴をふまえた病態理解をする ①慢性閉塞性肺疾患 ②脳卒中 ③心不全 ④パーキンソン病 ⑤骨粗鬆症・骨折 ⑥熱中症 ⑦白内障 2. 老年症候群 ①脱水 ②痛み・しびれ ③摂食嚥下障害 ④低栄養 (PEM,フレイル、サルコペニア) ⑤便秘・下痢 ⑥排尿障害 ⑦褥瘡			8 時間／ 4 回 講義
2. 認知機能の低下のある高齢者の理解 (長尾先生)	1. 高齢者の認知症の特徴 ①認知症の病態と要因 ②認知症の症状の理解とケア ③認知機能の評価方法 2. 高齢者のうつ病の特徴 ①引き起こす要因 ②看護 3. 高齢者のせん妄の特徴 ①引き起こす要因 ②看護			4 時間／ 2 回 講義
3. 健康段階別にみた治療を受ける高齢者の看護 (林先生)	1. 演習オリエンテーション ①使用事例 : 大腿骨頸部骨折で手術療法からリハビリテーション、退院に向けての支援までを受ける患者 ②演習の進め方 (事例患者の健康障害の段階に必要な看護について事例を通して学ぶ) ③老年看護における看護過程の考え方 2. 事例のアセスメント (高齢者の強みに着眼) 1) 手術療法を受ける高齢者の看護 (1) 手術の決定に向けた援助 ①インフォームドコンセント (家族も含む) ②手術に耐える力・予備力の把握 (2) 手術後の看護 ①術後におこりやすい合併症 (高齢者に起こりやすい術後合併症 : せん妄、呼吸器合併症、心不全、			14 時間 ／7 回 講義 演習

	腎不全、糖尿病の発症・悪化、水分・電解質の不均衡、褥瘡、縫合不全、深部静脈血栓症、起立性低血圧、筋力低下、関節可動域の制限) ②離床に向けた支援 2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 (1) 加齢に伴う薬物動態の変化 (2) 薬物管理とリスクマネジメント 3) リハビリテーションを受ける高齢者の看護（看護過程） (1) 高齢者に対するリハビリテーションの意義と特徴 ①回復過程が遅延する要因 ②患者の思い（意思決定） (2) 生活機能向上につなぐ看護 ①対象のアセスメント（ICF） ②リハビリテーションの目標とプログラムの設定 ③リハビリテーションを受ける高齢者への援助 4) 地域連携における退院時の看護（事例患者のニーズ） ①家族との連携 ②院内の他職種との連携 ③地域のサービス機関、医療機関との連携 5) 老年期における終末期の看護 (1) 高齢者の死と医療・ケア (2) 終末期看護の実践 (3) 看取りを終えた家族への看護		講義
4. 高齢者ケアにおける倫理的課題	1. 事例をもとに老年看護でおこりうる倫理的課題を明らかにして話し合う テーマ：「嚥下障害と食事」	2 時間／ 1 回	グループ ワーク
5. まとめ		2 時間／ 1 回	
評価方法および評価基準	筆記試験にて評価する 馬田先生：30 点 長尾先生：15 点 林先生：55 点 計 100 点		
備考	身近におられる高齢者と積極的に交流をはかり、高齢者の機能変化の特徴がイメージできるようにしましょう。 授業時間だけで理解することは難しいと思われますので、予習、復習をしっかりとしましょう。		
テキスト	ナーシンググラフィカ 老年看護①高齢者の健康と障害 ナーシンググラフィカ 老年看護②高齢者看護の実践		
参考文献	図書 ・エビデンスに基づく高齢者の看護ケア 後関容子 中央出版 ・生活機能からみた老年看護過程 山田りつ子医学書院 ・高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコル 石坂和子 日本看護協会 ・認知症に関する図書 DVD ・目で見える老年看護学 高齢者の看護援助 4. 急性期から症状安定期までの看護 5. 回復期リハビリテーションから在宅に向けての看護 6. 寝たきり高齢者の在宅看護 7. 認知症高齢者の看護		

授業科目	老年看護学技術	講師名	福嶺 初美	専門領域：看護師（老人看護専門看護師）：病院にて看護師として勤務）
	開講年次：2 年後期	単位	1	実務経験 年数 37 年
				時間数
				3 0 時間
授業科目 目標	1、高齢者と家族のおかれた環境、生活に適応できるための援助技術を学ぶ。 2、事例を通して高齢者と家族が地域で生活するために必要な看護するための看護における臨床判断を学ぶ。			
授業内容				
単元名	教育内容			時間
1. 高齢者の生活を支える看護技術	事例を通して高齢者の特徴の知識を使って看護技術を学ぶ 1. コミュニケーション 1) 加齢による心身の変化 (1) 視力の低下 (2) 聴力の低下 (3) 記銘・理解力の低下 2) コミュニケーションが生活に与える影響 (1) 心身の活性化、精神的満足感 (2) 孤独感・孤立感 3) 高齢者とのコミュニケーションの工夫 (1) コミュニケーション時の留意点			6 時間
2. 高齢者のフィジカルアセスメント	2. 食生活を支える援助技術 高齡者看護における臨床判断 老化に伴う生理的变化＋日常生活機能の喪失＝生命の危機について考える 留意点 疾患、治療に偏るのではなく「日常生活」を主軸として老人が自立した生活を送るのに必要なニーズについて考え、必要な看護を判断する 事例：高齢者の誤嚥性肺炎を防止するための食事介助 1) 食生活のアセスメント ①脱水 ②摂食嚥下障害 ③低栄養 2) 食事介助、摂食嚥下訓練の実際 3. 皮膚・粘膜の機能を高める援助技術 1) 清潔のアセスメント ①掻痒 ②痛み・しびれ ③感染症 2) 清潔の援助			8 時間

[illegible]

授業科目	母性看護学方法論	講師名	小山田 加奈子	専門領域：助産師 看護師 (病院にて看護師 助産師として勤務)		
				実務経験年数；23 年		
				開講年次：2 年次前期		
				単位 1 単位	時間数 3 0 時間	
授業科目目標	1、妊娠・分娩・産褥期における対象理解、正常分娩の経過と健康の保持増進の看護を学ぶ。 2、新生児の生理的特徴及びアセスメントと看護を学ぶ。 3、事例をもとに新生児と母子の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。					
授業計画						
単元名		教育内容			時間	方法
マタニティサイクルにある人々の看護の主要概念		子どもを生み育てるにあたり生じる遺伝および不妊の問題についてクライアントの自己決定を助けるために提供する情報やクライアントに接する態度について理解する。 1) 子どもを産み育てること 2) 遺伝相談 3) 不妊治療と看護			2	講義 GW
妊娠期における看護 看護過程＜妊娠期＞		妊婦および家族の看護について、妊娠期の身体・心理・社会的変化をまず理解し、妊婦および胎児アセスメント、妊婦の保健相談、家族を含めた看護について学ぶ。 1) 妊娠期の身体的特性 2) 妊娠期の心理・社会的特性と課題 3) 妊婦と胎児のアセスメント(経過と診断) 4) 妊婦と家族の看護 (母子保健サービス・保健相談・親になるための準備教育) ＊事例による看護過程の展開(妊婦の看護)			6	講義 GW
分娩期における看護 看護過程＜分娩期＞		分娩期の産婦の看護、分娩の経過に伴う身体・心理・社会的変化を理解し、アセスメントおよび援助の実際を学ぶ。 1) 分娩の要素 2) 分娩の経過および胎児モニタリングの理解 3) 産婦と胎児の健康状態・家族のアセスメント 4) 産婦と家族の看護(出産体験が肯定的になる) 5) 分娩期の看護の実際(おこりやすい問題と看護) ＊事例による看護過程の展開(産婦の看護)			6	講義 GW
産褥期における看護 看護過程＜産褥期＞		産褥期の褥婦および家族の看護について、褥婦の身体的変化を理解し、産褥経過の診断、褥婦の健康状態のアセスメント、および褥婦・家族の心理的・社会的変化の理解を通して学ぶ。 1) 産褥経過 2) 褥婦のアセスメント 3) 褥婦と家族の看護 4) 施設退院後の看護(育児・母乳哺育・社会資源・職場復帰) ＊事例による看護過程の展開(褥婦の看護)			6	
新生児期における看護 看護過程＜新生児期＞		新生児の看護では、出生を境にした胎児から新生児への生活環境および生理的な変化を理解し、児の正常な発達を援助する。 1) 新生児の生理 2) 新生児のアセスメント 3) 新生児の看護 ＊事例による看護過程の展開(新生児の看護)			6	講義 GW

母子の倫理的課題と対処方法	グループワーク ・「母乳授乳の強要」 1) ジョンセンの臨床倫 4 分割表で整理分析する 2) ステップ法で取り組みの方向性を明らかにする	2	
まとめ		2	
テキスト	ナースンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 ナースンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実際 ナースンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 メディカ出版		
参考文献	改訂6版 母子保健マニュアル(南山堂) ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程(医歯薬出版株式会社) 実践看護技術学習支援テキスト母性看護学(日本看護協会出版会)		
評価方法及び評価基準	筆記試験 100 点 ＊レポート課題、GW 評価、小テスト及び課題発表での参加・発表態度を評価の参考とする。		

授業科目	母性看護学技術	講師名	東島 利紀	専門領域：医師（病院（産婦人科）にて勤務） 実務経験 年数 36 年		
			小山田 加奈子	専門領域：助産師 看護師（病院で看護師助産師として勤務） 実務経験年数；23 年		
				開講年次		単位 時間数
				2 年次前期		1 単位 3 0 時間
授業科目目標	1、妊娠期・分娩期・産褥期の異常及びハイリスクな状況の人々の分娩経過とその看護及びハイリスク新生児の特徴を理解し、適切な看護を学ぶ。 2、女性特有の女性器疾患と看護を理解する。 3、母性看護で必要な看護技術を学ぶ。 4、事例を通して新生児と母親が地域で生活するために必要な看護をするための看護における臨床判断を学ぶ					
授業計画						
単元名		教育内容		時間	方法	
女性生殖器の疾患 (東島先生) 6 時間		生殖における健康問題 1) 月経異常 2) 性感染症 3) 女性器の腫瘍 ①子宮筋腫 ②子宮内膜症 ③子宮頸がん ④子宮体がん ⑤卵巣がん ⑥乳がん 4) 不妊症		6	講義	
妊娠・分娩・産褥の異常 (小山田先生)		妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児におこる問題について理解し、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。 A. 妊娠の異常と看護 B. 分娩の異常と看護 C. 新生児の異常と看護 D. 産褥の異常と看護 E. 精神障害合併妊婦と家族の看護		8	講義 GW	
マタニティサイクルにおける技術 (小山田先生)		新生児の看護に関わる技術 新生児ケア技術 ① 抱き方・寝かせ方 ②衣類・おむつの交換 ③沐浴:技術チェックを行います。		6	演習	
		妊婦の看護に関わる技術 妊婦アセスメント技術 子宮底、腹囲測定、胎児心拍測定、レオポルド触診法など		2	演習	
		産婦の看護に関わる技術 産婦ケア技術 産痛緩和(圧迫、呼吸、マッサージ、安楽な体位、フリースタイル)		2	演習	
		褥婦の看護に関わる技術		4	演習	

	褥婦アセスメント技術 ①悪露交換 ②子宮底の観察 ③乳房の観察		
マタニティサイクルにおける臨床判断と退院支援 (小山田先生)	事例から各マタニティサイクルでの対象の状態を判断し看護の必要性を明らかにする ①マタニティサイクルにおける状態の判断 ②退院後仕事復帰する母親への保健指導の必要性	2	講義
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 母性看護学②母性看護の実際 母性看護学③母性看護技術 【女性生殖器疾患】メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 疾患と看護；女性生殖器		
参考文献	改訂6版 母子保健マニュアル(南山堂) ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程(医歯薬出版株式会社) 実践看護技術学習支援テキスト母性看護学(日本看護協会出版会)		
評価方法及び評価基準	筆記試験と技術チェックで評価する 筆記試験 100点(東島先生:30点 小山田先生:70点) 90% 技術チェック 90% ※レポート課題、GW 評価、小テスト及び課題発表での参加・発表態度を評価の参考とする。 技術チェック:「沐浴」の技術チェックを行います。詳細は、後日、説明いたします。自己練習のもと、技術の習得を計画的に行いましょう *技術習得のための技術練習については、別冊『看護技術習得のためのチェック表』を参照して計画的に練習すること		

専門分野

令和7年度(2025年)

授業科目	小児看護学方法論	講師名	鐘江 竜子	専門領域 : 看護師 (病院にて看護師として勤務)
				実務経験 年数 22 年
			林 さおり	専門領域 : 看護師 (病院にて看護師として勤務)
				実務経験 年数 31 年
			古賀 久美	専門領域 : 看護師 (病院にて看護師として勤務)
				実務経験 年数 30 年
	開講年次 : 2 年次前期		単位	時間数
			1	3 0 時間
授業科目 目標	1. 健康障害が小児及び家族に及ぼす影響を理解し、小児の症状・検査・処置に応じた看護援助の方法と看護アセスメントを学ぶ。 2. 小児と家族のおかれた環境、生活に適応できるための援助を理解する。			
ねらい	1. 小児の疾病・障害の病態を理解し、健康障害に応じた看護を理解する。 2. 健康障害が小児と家族に与える影響を理解し予防、健康の回復、及びよりよい成長・発達への看護支援を学ぶ。 3. 事例をもとに子どもと家族の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。			
授業計画				
回	単元名	教育内容	時間	方法
1	Ⅲ 健康障害を持つ子ども・家族への看護 (林先生)	1. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護 1) 子どもの病気の理解 2) 子どものプレパレーション 3) 健康障害に伴う子どものストレスと対処 4) 子どものストレス対処への支援 5) 子どもの健康障害に伴う家族のストレス 6) 病気の子どもの家族のストレス対処に対する援助	2	講義 GW
2		1. 急性期にある子どもと家族への看護 1) アセスメントと看護 ①発熱②脱水③嘔吐・下痢④呼吸困難⑤けいれん ⑥生命徴候が危険な状況のアセスメントと看護 ・熱傷 ・心肺蘇生 (小児看護技術で学ぶ) 2) 急性期にある子どもと家族の特徴 3) 急性期にある子どもと家族への看護 2. 小児の特有の急性期の疾患 川崎病／感染症	8	講義 GW ワー クシ ート
3				
4				
5				
6 7	(鐘江先生)	1. 慢性期にある子どもと家族への看護 1) 慢性期の特徴 ・小児慢性特定疾病・小児慢性特定疾病医療費助成制度 2) 慢性期にある子どもと家族 3) 慢性期にある子どもと家族のエンパワーメントを支援する看護 4) 今後の課題 2. 小児の慢性疾患 I 型糖尿病／白血病	4	講義 GW ワー クシ ート

8	(古賀先生)	1. 終末期にある子どもと家族への看護 1) 子どもの死と概念発達 2) 終末期にある子どもと家族の心理 3) 終末期にある子どもの身体特徴 4) 緩和ケア 5) 終末期にある子どもの家族への援助 2. 事例を用いて「終末期にある子どもと家族の看護」について話し合い、小児の終末期ケアと倫理的課題について考える。	2	講義 GW
9 10		1. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護 1) 子どもへの説明と同意 2) 子どもの安全・安楽の援助 3) 子どもの力を引き出す援助 4) 検査や処置を受ける子どもと家族への援助 <主な検査> ・採血/腰椎穿刺/骨髄穿刺/採尿・浣腸・検査、処置時の抑制について	4	講義 GW
11		1. 手術を受ける子どもと家族への看護 1) 手術を受ける子どもの特徴 2) 手術の時期と種類 3) 術前看護 4) 術後看護 5) 手術を受ける子どもと家族への看護 2. 小児の手術の代表的疾患	2	講義 GW
12		1. 在宅における子どもと家族への看護 1) 小児在宅医療の意義 2) 小児在宅ケアの現状 3) 在宅療養を必要とする子どもと家族の特徴 4) 在宅療養を行う子どもと家族への看護 5) 在宅療養の継続における看護	2	講義 GW
13		1. 先天性疾患のある子どもと家族への看護 1) 先天性疾患をもつ子どもの家族の心理的反応（ドローターの心理的反応の経過） 2) 先天性疾患が成長発達に与える影響 3) 先天性疾患をもつ子どもの看護の特徴 4) 先天性疾患のある子どもを持つ家族への看護 2. 先天性疾患 ダウン症／先天性股関節脱臼	2	講義 GW
14		小児看護学における看護倫理 事例：事例をもと小児看護で起こりうる倫理的課題を明らかにして話し合う。 「治療による活動制限に対する倫理の考え方」	2	GW
15	まとめ (古賀先生)	まとめ	2	
評価方法・評価基準		筆記試験 100 点 筆記試験及び講師が提示した課題の提出をしなければ単位認定しません 6・7：鐘江先生（10 点） 1～5：林先生（30 点） 8～14：古賀先生（60 点）		

テキスト	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版
参考文献	・これだけは知っておきたい 小児ケア Q&A 編集 五十嵐隆 総合医学社 2011 ・小児看護 第2版 パーフェクト臨床実習ガイド 監修 筒井真優美 照林社 2017 ・根拠と事故防止から見た 小児看護技術(第2版) 編集 浅野みどり 医学書院 2017 他、授業内で適宜紹介します

授業科目	小児看護学技術	講師名	野尻 千恵		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務） 実務経験 年数 18 年	
			草場 昂		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務） 実務経験 年数 14 年	
			馬場 若美		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務） 実務経験 年数 21 年	
			開講年次：2 年次前期～後期			
	単位 1		時間数 30 時間			
授業科目 目標	1. 小児の成長・発達をふまえたアセスメント力を高め、健康課題を理解する中で臨床実践能力の向上を図る。 2. 小児に必要な看護技術を学び、看護の実践を図る。					
ねらい	1. 健康障害が小児及び家族に及ぼす影響を理解し、小児の症状・検査・処置に応じた看護援助の方法と看護アセスメントを学ぶ。 2. 小児と家族の置かれた環境、生活に適応できるための援助方法を学ぶ。 3. 小児の成長発達をふまえたアセスメントができ、個々の小児に応じた看護が展開できるための看護における臨床判断を学ぶ。 4. 事例を通して子どもと家族が地域で生活するために必要な看護をするための看護における臨床判断を学ぶ。					
授業計画						
単元名		授業内容			時間	方法
1	小児に必要な援助技術 (野尻先生)	1. 援助を形成する技術			2	講義 演習 GW
2		1) 援助関係を形成するうえで必要な基礎知識				
3		2) 子どもとの援助関係を形成する技術				
		3) 家族との援助関係を形成する技術				
		4) 援助関係を形成する技術の活用			2	
		2. 安心・安全な環境を調整する技術				
		1) 子どもの視点に立った病院の物理的環境づくり				
		2) 発達段階に応じた環境づくり				
		3) 事故を防止する環境づくり				
		4) 感染予防のための環境づくり				
		3. 食事の援助技術			2	
		1) 子どもへの食事援助の実際				
		2) 子どもの健康状態に応じた食物・栄養摂取方法とケア				
		4. 排泄の援助技術				
		1) おむつ交換			2	
		2) 排泄行動自立への援助				
		3) 浣腸				
		演習 おむつ交換（バイタルサイン測定の演習時に行う）				
	5. 清潔・衣生活の援助技術			2		
	6. 呼吸・循環を整える援助技術					
	1) 酸素療法					
	2) 吸引					

4		3) 吸入 演習： 吸入 7. 与薬の援助技術 1) 与薬に必要な基礎知識 2) 経口薬 3) 座薬 4) 輸液管理 8. 症状・生体機能の管理技術 1) バイタルサインの測定 2) 身体計測 3) 検体の採取 4) 検査 演習 バイタルサイン測定 身体測定 オムツ交換	2	演習
5		9. 安全・安楽を確保する技術 1) 安楽な体位 2) 処置やケアへの遊びの活用 3) 安全・安楽を考慮した行動制限 10. プレパレーションの活用	2	
6 7	小児の事故・ 救急措置 (草場先生)	1. 救急救命の技術 1) 小児に多い事故と救急処置 家庭内で起こりやすい事故の要因や 初期対応が理解できる	4	講義 DVD
8 9 10	小児看護で 用いられる 理論 (馬場先生)	1. 小児看護で用いられる理論の活用 1) 小児でみられる場面の事例を理論を用いてとらえる。	6	演習 GW
	臨床判断 (馬場先生)	1. 急性期における臨床判断 2. 慢性期における臨床判断 3. 退院に向けての時期の臨床判断 4. 退院後における臨床判断 ▼急性期～慢性期、退院、退院後の生活に戻るまでの看護過程を一連の事例を使い、健康障害のある子どもと家族への看護を学ぶ。		
11 12 13 14 15	看護過程の 展開 (馬場先生) まとめ	1. 小児の看護過程（慢性期における子どもの看護計画までの立案） 疾患や入院が発達段階や家族へ及ぼす影響を考え、アセスメントから計画立案まで行う 授業のまとめ	10	講義 演習
〈備考〉小児看護方法論の学びを基本に小児と家族の看護を考えていきます。実習の前に発達段階の特徴を理解し、看護過程の展開を十分に習得しておく必要があります。				
評価方法及び評価基準		筆記試験 100点 筆記試験及び講師が提示した課題の提出をしなければ単位認定はしない。 1～5：野尻先生（40点） 6～12：馬場先生（50点） 13・14：草場先生（10点）		

テキスト	ナーシング・グラフィカ	小児看護学①	小児の発達と看護	メディカ出版
	ナーシンググラフィカ	小児看護学②	小児看護技術	メディカ出版
	ナーシング・グラフィカ	小児看護学③	小児の疾患と看護	メディカ出版
参考文献	授業内で紹介します			

授業科目	精神看護学方法論	講師名	田中 みとみ	専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務）	
				実務経験 年数 49 年	
			佐藤 みゆき	専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務）	
				実務経験 年数 15 年	
	開講年次：2 年次前期・後期		単位	時間数	
			1	30 時間	
授業科目 目標	1、精神科での検査、治療を理解し、精神を病む人への適切な看護を学ぶ。 2、精神症状と精神疾患を学び、入院から退院・地域での生活を含め精神を病む人への適切な看護を学ぶ。 3、事例をもとに精神を病む人の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。				
ねらい	1、主な精神疾患・障害の特徴と看護について理解することができる。 2、精神疾患・障害がある者の人権と安全を守り、回復を支援する看護について理解することができる				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1 章：精神看護における看護過程 (佐藤先生)	1 精神看護における看護過程の考え方 ①全人的視点 ②経過・重症度別看護 ③精神看護でよく使われる看護理論			2	講義
2 章：精神を病む人への看護援助の基本 (田中先生)	1 脳の仕組みと精神機能 ① 脳の部位と精神機能 ② 神経伝達物質と精神機能・薬理作用 ③ ストレス脆弱性仮説 ④ 睡眠障害と概日リズム ⑤ 生物心理社会的要因モデル 2 心理・社会的療法 ① 個人精神療法 ② 集団精神療法、集団力動 ③ 心理教育的アプローチ ④ 認知行動療法 ⑤ 生活技能訓練<SST> 3 その他の治療法 ① 電気けいれん療法 4 生きる力と強さに着目した援助 ① レジリエンス ② リカバリー<回復> ③ ストレングス<強み、力> ④ エンパワメント			6	
(佐藤先生)	5 ① 症状性を含む器質性精神障害 ② 精神作用物質使用による精神および行動の障害 ③ 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 ④ 気分<感情>障害			16	講義 演習

3章:精神看護の倫理と人権擁護におけるケース・マネジメント まとめ	⑤ 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 ⑥ 成人の人格及び行動の障害 ⑦ 知的障害〈精神遅滞〉 ⑧ 心理的発達の障害 ⑨ 小児〈児童〉期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 ※①～⑨の共通の小項目 (1) 治療と看護 1) 薬物療法 2) 心理療法 3) 作業療法 4) 生活療法 5) レクリエーション療法 6) 集団療法 (2) 検査・処置 6 事例展開 ① 精神看護で起こりうる倫理的課題の明確化と看護「精神疾患を持った患者への偏見」	4 2	講義 演習 講義
評価方法及び評価基準	筆記試験で評価する 筆記試験 100点 (田中先生 2章1. 2. 3. 4 : 20点 佐藤先生 左記以外 : 80点) 試験時間は60分		
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学②精神障害と看護の実践		
参考文献 備考	精神看護過程 医学書院、精神科看護倫理実践テキスト		

専門分野

令和7年度（2025年）

授業科目	精神看護学技術	講師名	平山 顕行	専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務） 実務経験 年数 23 年		
			小山 宏子	専門領域：精神保健福祉士保健所にて精神保健福祉士として勤務） 実務経験 年数 7 年 （精神科ソーシャルワーカーとして福岡県精神保健福祉センターへ勤務） 実務経験 年数 26 年		
				佐藤 みゆき	専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務） 実務経験 年数 15 年	
					単位	時間数
					1	30 時間
			開講年次：2 年次後期			

授業科目 目標	1、患者と看護者関係を築いていく上で必要な自己理解、他者理解のための知識・技術・態度を学ぶ。 2、事例を通して精神を病む人が地域で生活するために必要な看護をするために必要な看護をするための看護における臨床判断を学ぶ。		
ねらい	1、精神疾患・障害がある者の生物・心理・社会的側面に注目した、多角的なアセスメントに基づく看護について理解することができる。 2、精神看護の対象の理解と支援のための概念について理解することができる。		

授業計画			
単元名	教育内容	時間	方法
1 章：精神看護における対象と自己の理解 (平山先生)	1 援助関係の構築 看護全般における治療的援助関係の信頼関係の つくり方 ① 信頼関係の基礎づくり ② 患者－看護師関係の発展と終結 ③ プロセスレコードの活用 ④ メタ認知 2 精神的安寧を保つためのケア演習 精神的安寧を保つケア	6	講義 演習
2 章：精神看護におけるケアの方法（経過別事例から看護における臨床判断） (佐藤先生)	3 セルフケアへの援助 ① 食物・水分の摂取 ② 呼吸 ③ 排泄 ④ 清潔と身だしなみ ⑤ 活動と休息 ⑥ 対人関係 ⑦ 安全	8	
(佐藤先生)	4 家族への看護 ① 家族のストレスと健康状態のアセスメント ② 家族の対処力とソーシャルサポートのアセスメント ③ 家族システムのアセスメント ④ 家族への教育的介入と支援 ⑤ 患者－家族関係	2	
(小山先生)	5 社会復帰・社会参加への支援 ① リハビリテーションの概念 ② 国際生活機能分類<ICF>	2	

(佐藤先生) まとめ	③ 長期入院患者の退院支援 6 精神保健医療福祉に関する社会資源の活用と調整 ① 精神科デイケア、精神科ナイトケア ② 精神科訪問看護、訪問看護 ③ 困難事例に関する行政との連携 (保健所、市町村、精神保健福祉センター) 7 社会資源の活用とケアマネジメント a. 精神疾患・障害者ケアマネジメントの基本的考え方 b. 社会資源の活用とソーシャルサポート c. セルフヘルプグループ d. 自立支援医療 e. 居宅介護<ホームヘルプ>、同行援護および行動援護 f. 重度訪問介護 g. 生活介護 h. 短期入所<ショートステイ> i. 共同生活介護<ケアホーム> j. 就労移行支援 k. 就労継続 A 型・B 型 l. 共同生活援助<グループホーム> m. 地域生活支援事業 n. 精神障害者保健福祉手帳 8 チーム医療 ① チーム・ミーティング ② 治療目標と看護目標の設定 ③ カンファレンスの意義 9 ケース・マネジメント ① ニーズの把握 ② ケアアセスメント ③ 実施、評価のプロセス	2 6 2 2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験で評価する 筆記試験 100 点 1 章：平山先生 (20 点)、2 章 3、4、8、9：佐藤先生 (50 点) 2 章 5～7：小山先生 (30 点) 試験時間は 60 分		
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学②精神障害と看護の実践 日総研 自己理解・他者理解を深めるプロセスレコード 長谷川雅美		
参考文献	看護判断のための気づきとアセスメント精神看護、精神看護学第 2 班		
備考			

- 51 -

対象に応じた療法への看護	1、対象に応じた薬物療法への看護 小児・高齢者・妊産婦 ①小児の身体的特徴から見た薬物療法 ②高齢者の身体的特徴から見た薬物療法 ③妊産婦の身体的特徴から見た薬物療法 2、状態に応じた栄養療法への看護 ①消化器疾患 ・肝臓疾患 ・消化管疾患 ②心疾患 ③呼吸器疾患 ④腎疾患	2	
まとめ		2	
テキスト	メディカ出版　ナーシング・グラフィカ　臨床看護総論など		
評価方法及び評価基準	筆記試験と課題点数　100 点		
参考文献	1) 今日の治療薬（南江堂） 2) ケアに生かす検査値ガイド（照林社） 3) 看護過程に沿った対象看護（学研）		

授業科目	家族看護学	講師名	林 利奈 他		専門領域
					看護師（病院にて看護師として勤務）
	開講年次：2年次前期	単位	時間数	実務経験年数	
1		30 時間	30 年		
授業科目 目標	1、家族看護の対象を理解し、家族看護を支える理論と介入方法を学ぶ。 2、事例を通して、各場面での家族への看護介入を考え、実践できる。・				
ねらい	現在の施設内療養及び、在宅療養にあたり家族成員に起きた健康問題は療養者個人への影響にとどまらず、家族全体に影響を及ぼすことになる。また、家族成員の関係そのものが療養者の疾患や家族成員の健康問題を引き起こしていることもある。したがって、現代の看護において家族を含んで看護を展開することは必要不可欠である。そこで家族を看護として支援するために理論と看護展開方法を学んでほしい。				
授業計画					
単元名	教育内容		時間	方法	
1. 家族とは	①家族の基本概念 ②家族の種類 ③家族の変貌		2	講義	
2. 家族看護とは	①家族看護の必要性 ②家族看護の特徴 ③家族看護の目指すところ		2	講義	
3. 家族看護の対象	①家族構造 ②家族機能 ③現代の家族とその課題		4	講義	
4. 家族看護を支える理論と介入方法	①家族発達理論 ②家族システム論 ③家族ストレス対処理論 ④家族アセスメントモデル ・カルガリー家族モデル ・家族看護エンパワーメントモデル		4	講義	
5. 事例に基づく家族看護の実際				講義	
（成人領域担当と共に） 中野先生	1）急性期患者の家族看護（成人） ①患者の家族の特徴 ②家族アセスメント ③援助の方向性		4		
（小児領域担当と共に） 馬場先生	2）慢性期の小児患者の家族看護（小児） ①患児の家族の特徴 ②家族アセスメント ③援助の方向性		4		
（精神領域担当と共に） 佐藤先生	3）精神疾患患者の家族看護（精神） ①患者の家族の特徴 ②家族アセスメント ③援助の方向性		4		
（老年領域担当と共に） 林先生	4）高齢者の患者の家族看護（老年） ①患者の家族の特徴 ②家族アセスメント ③援助の方向性		4		
（母性領域担当と共に） 伊藤先生	5）周産期に関する家族看護（母性） ①産婦の患者の特徴 ②家族アセスメント ③援助の方向性		4		
まとめ （林先生）			2		

評価方法及び 評価基準	筆記試験（筆記またはレポート） 100 点 内訳：全体 林先生（50 点） 成人（10 点） 老年（10 点） 小児（10 点） 精神（10 点） 母性（10 点） ＊評価については、各講師から説明があります 講師が指定した提出物は全て提出のこと、提出されなければ、評価できないため未履修となります
テキスト	系統看護学講座、「家族看護学」上別府 圭子編 医学書院
参考文献	石川実編 「現代家族の社会学」 有斐閣 1977 正岡寛司編「現代家族論」有斐閣 1998 湯沢雅彦編「データで読む家族問題」NHK ブックス 2003 岡堂哲雄編「家族カウンセリング」 金子書房 2000 亀口憲治編「家族療法」ミネルヴァ書房 2006 黒田裕子監修「よくわかる中範囲理論」学研 2009

